Tatsunoko　竜の子ファンクラブニュース　*NO.10 July 1980*

FAN CLUB NEWS

画　大貫信夫

『もう誰にも傷ついてほしくない！！それなのに、南部長官、そして健…お前までがなぜ苦しまなければならない』

科学忍者隊ガッチャマンＦ（ファイター）

怒り編ともいえる「ガッチャマンファイター」
今こそ、４年間のドラマを燃焼させよ!!

①総裁Ｚの計る地球懐滅反物質惑星計画とは!?

科学忍者隊と総裁Ｚの死闘は、今や、終局をむかえようとしていた。ガッチャマンシリーズ最強の敵、エゴボスラー率いるギャラクターの攻撃は一段と激しさを増し、それに輪をかけ、総裁Ｚが背後より地球壊滅作戦を企ててきたのだ。

総裁Ｚは、総裁Ｘからの恨みを増幅させ、地球を消滅せんと憤っていた。かってのブラックホール作戦、ソーラーシフト計画に続く、最終攻撃にして最大、その地球壊滅作戦とは——！？

総裁Ｚは、地球より北極星の方向、一億キロの宇宙の彼方で、７つの宇宙ステーションを繰り、反物質小惑星を造っていた。この反物質を造り出す際、宇宙波動（これを宇宙パルスという）が発生する。Ｚはそのエネルギーをキャッチし、情報分析や武器に使用していた。

この反物質は正物質と触れた時に、絶大なる破壊力を発揮する。反物質が正物質と相した時の破壊力は、水爆の150倍にもなる。反物質惑星の質量にもよるが、全てが正物質でできている地球にむかわせれば、大気圏をかすめただけで、地球などこっぱ微塵に吹っ飛んでしまう。これが地球壊滅、反物質惑星計画である。

反物質を地球にぶつけて破壊するのだ——。総裁Ｚは、反物質惑星計画を着々と進めていた。だが、その前に目障りな南部長官の存在があった。彼は宇宙パルスの謎をすでに捕みかけていた。それを解き明かせば、反物質惑星計画もすぐに見抜いてしまうだろう。このままにしてはおけない。総裁Ｚは南部崩壊に歩を進めた。

「エゴボスラーよ、南部を殺せ」ギャラクターの前にはばかる者、地球征服を拒む者は生かしてはおけない……！　総裁Ｚはエゴボスラーを持ち駒とし、南部と忍者隊へ立ちむかわせた。

②健に忍びよる死の影

南部は宇宙パルスの謎解きに日々頭を悩ませていたが、健のことも気がかりであった。科学忍者隊の必殺技、ハイパーシュートによって健の肉体は蝕まれ、細胞破壊をおこしていたのだ。

ハイパーシュートとは —— 。ガッチャスパルタンのジェネレーターがレッドゾーンまでアップした時、高エネルギーが発生するが、この高エネルギーをＧ１号機からガッチャマンのＧスーツを媒体としガッチャマンフェンサーに伝えると、フェンサーは更に強化され、ガッチャマン自身が火の玉となって、鋼鉄を突き破ることができるのである。

このハイパーシュートに堪えられるのは強靱な体力と特殊な訓練をつん

だガッチャマンの肉体だけであった。だが、ガッチャマンの肉体にも限界があった。このまま細胞の機能破壊が続けば、ガッチャマンは死ぬ！

南部の心にどれほどのショックが走ったか計りしれない。自分の開発したGスーツが不完全であったために健の肉体に負担がかかり、死に直面するまでにいたってしまったのだ。

「なんということだ。私は地球の平和のためとはいえ、無二の親友であった健の父、レッドインパルスの隊長を死に追い込み、また彼の息子を戦いの渦中へ放り、生命の危険を負わせようとしているのか ― ！」

しかし、たとえ南部が健の生命を案じハイパーシュートを彼にさせまいとしても、彼は止めるのもきかず、ハイパーシュートに挑んだであろう。ハイパーシュートこそがギャラクターに対抗できる最大の武器であるなら、死を賭けても突き進んでいく。それが科学忍者隊であった。なかでもリーダーとしての健は誰よりも責任感が強かった。他のメンバーを危険な目にあわせたくなかった。何よりもジョーにはハイパーシュートをさせてはならない。

③父ならばきっと言うだろう。「命を賭けろ」と…。

健は「自分が死ぬかもしれない」 ― この事実をつとめて明るく包み込んでしまった。皆に無用の心配をかけまいと自分の心のうちにしまっておきたかったのだろう。

だが、いつまでも隠しおおせるものではない。とくにジョーは、健が一度ハイパーシュートに失敗した時からただならぬものを感じていた。それがハイパーシュートによって健の肉体が蝕まれたのだと知った時、怒ったように叫んだ。

「何故、俺にハイパーシュートをさせなかったんだ。俺はサイボーグだ。一度死んだ肉体だ。健の、健の生身の肉体に何故！」

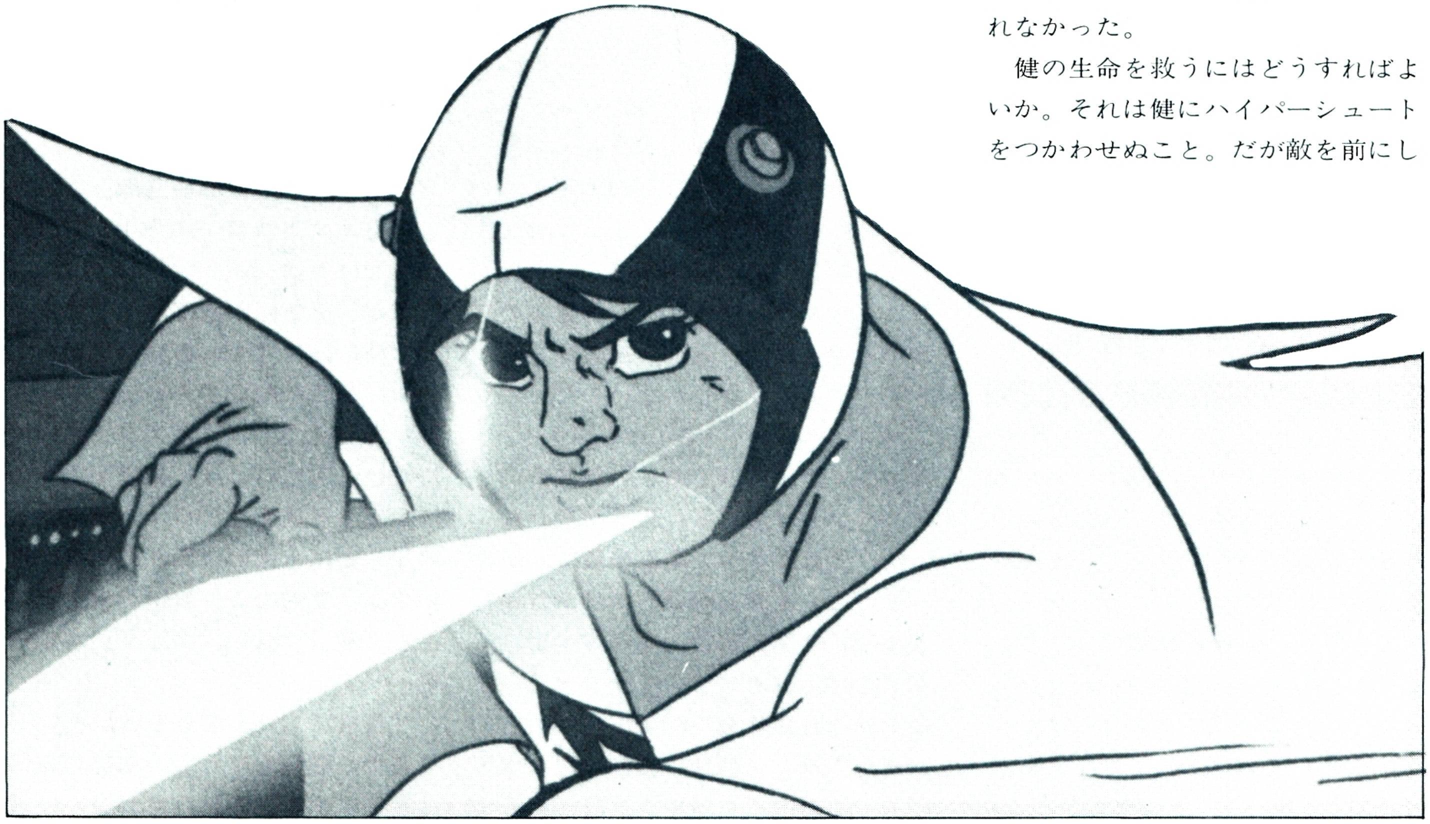
「ジョー、南部長官を責めないでくれ。Gスーツが実験段階で危険だと知りつつ、ハイパーシュートの使用を望んだのは俺なのだ。お前は既に肉体の殆どを戦闘サイボーグとして改造し、忍者隊を支えてきた。これ以上重荷を負わせることがどうしてできよう。お前にさせるのならば俺が！　俺は生命ある限り、科学忍者隊のリーダーだ。だが、まだ死ぬわけにはいかぬ。ギャラクターを倒すまでは……！　俺たちの生命は五つで一つ。俺をのぞいて皆の生もなければ、死もまたない。これだけは覚えていてくれ」

死してもなお戦う。そこにはかって地球を守るがために命を投じたレッドインパルスの隊長、鷲尾健太郎の息子の姿があった。

④固く結ばれた友情

南部は健の破壊された細胞を再生するためにあらゆる実験を試み、細胞活性装置ネオバイオリアクターを開発するが、それは完全なものではなかった。健の肉体は快復するようにみえたが、それは一時的なもので、いつまた死の恐怖が襲ってくるかしれなかった。

健の生命を救うにはどうすればよいか。それは健にハイパーシュートをつかわせぬこと。だが敵を前にし



て健にそんな我慢ができるはずがない。

健は急いていた。リーダーとしての責任感とギャラクターを倒さねばという憤りが健を先走らせた。ともすれば、危険に自ら身をさらし、今にも一人でいってしまいそうだった。

動揺している健の頬にジュンの平手打ちが飛んだ。

「それでも健は冷静なリーダーといえるの？　長官は一体誰のために闘っていると思うの？　健、あなたのためなのよ！　あなたを生かしたいためなのよ！　そのあなたが命を縮める行為をするなんて……、バカよ！　大バカよ！　生きるのを諦めるのは愚かだ。こう言ったのは誰？　勝手に死ぬのは許さん、死ぬ時は一緒だ……。みんな……みんな……健が言ったことよ……」

健の頬は熱かった。こんなに自分を想っていてくれるみんながいる。この固く結ばれている友情があるかぎり、ギャラクターに負けはしない。

⑤南部を殺せ!!　奴を殺した者が首領となれる。

一方ギャラクター内部ではエゴボスラーの出生を巡って、内部分裂が起ろうとしていた。ギャラクターの参謀ケンペラーは、エゴボスラーがファミリーの正統な血筋でないことをつきとめ、反逆を企てたのである。ケンペラーは、エゴボスラーによって幽閉されていたファミリーの正統な後継者、カール・エゴボスラー（エゴボスラー大伯の正妻の子として生まれ、エゴボスラーの異母兄にあたる）を見つけ出すと、新首領にしたてあげ、エゴボスラーにかわり、自分こそがギャラクターの実権を握ろうとする。そしてついにはギャラクター首領の地位からエゴボスラーを引きずり落すまでに至るのである。

ファミリーは新指揮者ケンペラーに従い、南部暗殺計画を進めつつあった。だが、ケンペラーと並ぶ参謀、メカンドルはケンペラーに服従しなかった。たとえエゴボスラーがファミリーの正統な血をひかずとも、今日までファミリーを最強のギャラクターとして統率してきたのは、ケンペラーやカール・エゴボスラーではなく、エゴボスラーにほかならない。メカンドルは言う。

「力あるものがわれらを率いるべきなのです」

エゴボスラーはメカンドルと少数のギャラクター隊員と共にギャラタウンから逃亡し、ケンペラーへの反撃の機会をうかがった。今のままでは正統な血をひくカール・エゴボスラーに対し、勝つ見込みはない。再びエゴボスラーファミリーの首領の地位を得るには、南部と忍者隊を倒し、その力を示すしかないのだ。

エゴボスラー　VS　ケンペラー。ギャラクター内部で激しい首領争いがくりひろげられる。食うか食われるか。それはすべて南部暗殺にかかっていた。南部を暗殺した者が首領となり、地球征服者となれるのだ。そうしてエゴボスラーとケンペラーはそれぞれに総裁Zの協力をあおぎ、右から左から、執拗に南部に迫っていく。その二人を冷やかに見つめる総裁Zがいた。

「こうなれば、南部の命は時間の問題だわい。フワッハッハッハ」

⑥たとえ俺が斃れても、俺の屍を越えてゆけ!!

ガッチャマンは今こそ最大のピンチをむかえていた。彼らはケンペラー率いるギャラクターの都市攻撃を阻止するため出撃した。その間に手うすとなったガッチャマン基地を逆側からエゴボスラーに攻められ、ついに破壊されてしまうのである。またあろうことか、ガッチャマン基地を守らんがため、直接戦闘指揮をとっていた南部が、エゴボスラーに捕えられてしまったのだ！！　さらに鴨技師長も深く傷つき、健の身体にも再び細胞破壊という死の影が不気味に忍び寄ってくる——！！

あやうし！　南部耕三郎。なんとしてもエゴボスラーの掌中から救い出さなければ……。

だが、忍者隊が南部のもとに向かった時には、すでに事態は悪変していた。必死の想いでギャラクター本部を探しあて、エゴボスラーの懐中に飛び込んだ時には、硝煙が立ちのぼる拳銃を構えて立つエゴボスラーの足もとに、南部は倒れていた。彼の生命は風前の灯。驚愕の目で駆けよる、健、ジョー、ジュン、甚平、竜——！！

「長官！　死んじゃやだよ～！」

甚平の願いも空しく、南部の表情は苦痛に歪み、激しい息づかいに言

葉もよく聞きとれない――。

「健、宇宙パルスは……地球を攻撃する恐るべきエネルギー……は、反物質……。それを防ぐには……健……。私は科学者として……君を科学忍者隊のリーダーにした責任においても君の身体を元通りにし……」

そう言いかけると南部は絶息した。あ、なんと口惜しいことだろう。健を目の前にしながら南部は反物質惑星計画を伝えられず、健の身体を直せぬまま、逝かざるをえなかったのだから……。

忍者隊の憤怒は言いようもないほど脹れあがっていた。父と親い、共に悪と闘った人が、最も憎むべき敵の手によってこの世を去ったのである。しかし、哀しみの極限の中にあっても、忍者隊は泣くことを許されなかった。健は涙をこらえ、きっとメンバーを見た。

「泣くな！　今は泣いている時ではない。ギャラクターを倒し、平和を取り戻した時に俺たちだけで泣こう……」

平和と科学の父、永遠に極地に眠る。だが、南部長官の遺志は科学忍者隊の中に生きている。負けるな！ひるむな！　地球は一つ。どんなことがあろうと守らなければならない。

ガッチャマンの決意は熱く燃えていた。

「たとえ俺が斃れても、俺の屍を越えてゆけ。五人のうち、一人でもＺの急所に辿りつけば……忍者隊に託された地球の最後の希みを守ることができる――」

南部長官の亡きあと、科学忍者隊は総裁Ｚの反物質惑星計画を阻止できるのであろうか。あるいは地球はこのまま絶命の日を迎えることになるのか？　また、総裁Ｚとエゴボスラーの行方、健の生命は？

いよいよ大詰めをむかえる「ガッチャマンファイター」　今、４年間の壮絶なドラマに終止符がうたれようとしている。

■制作スケジュール

No.	放映	仮タイトル	脚本	絵コンテ	演出
41	7/13	崩壊！ガッチャマン基地	鳥海・陶山	杉山 有時	津田 義三
42	20	南部長官の最期	鳥海・陶山	植田 秀仁	植田 秀仁
43	27	ギャラタウンの壊滅	中原 朗	落合 正宗	石田 正平
44	8/3	迫り来る宇宙の悪魔	鳥海 尽三	高垣 幸蔵	香川 豊
45	10	危うし！パニック・イン・テラ	陶山 智	高垣 幸蔵	石田 正平
46	17	Ｇ１号 決死のパワーアップ	陶山 智	杉山 有時	津田 義三
47	24	地球消滅！最後の挑戦	山本 優	真下 耕一	真下耕一
48	31	永遠に翔べ！不死鳥の戦士たち	山本 優	植田 秀仁	植田 秀仁

●一話一話、大切に創りたいですね。

■演出　植田秀仁

▲８月末の最終回へむけて、制作に励むガッチャマン班

ガッチャマンは、やはりむつかしい作品ですね。テーマが深いし、キャストの個性が強いため、生みの苦しみというのは人一倍で、徹夜が続くということもあったし、皆必死だった――。それなりに技術的なこととか、得たことも大きかった。

個人的にいえば、僕は今まで〝貫太くん〟〝ヤッターマン〟〝テンプル〟等のギャグ・メルヘン物を手がけてきて、ＧＭⅡとファイターと、ＳＦアクション物は初めてなので、かなりとまどうこともありました。場面設定や心情描写とか勉強になりましたね。でも苦労したなりに、僕なりのガッチャマンは演出できたのじゃないかな。

後半の話数では「南部長官の最期」を演出しました。今は最終話を制作中です。＃42では南部を殺す場面でとくに悩みました。死ぬといってもそんじょそこらの一般市民が死ぬとはわけがちがいます。ＩＳＯの長官であり、科学者であり、忍者隊の育ての親である南部なりの死に方をさせてやりたい――と、その辺のもっていき方が辛かったですね。

最終話ではいよいよ総裁Ｚとガッチャマンが対決します。亜空間のそれも総裁Ｚの体内で死闘が繰り拡げられるのだけれど、総裁Ｚの神秘なイメージと健の死を直面にして苦しみぬいている様をどう描こうかと考えています。

最終話では、旧作からファイターまでの４年間のドラマをこの一話で終結させることになるわけですから、大切に創りたいですね。健とメンバーとのからみ、それをとりまく人々――それらを全力投球で描いていきたい。どうぞ皆さん、総裁Ｚと科学忍者隊の闘い、地球は平和をとり戻すことができるか、最後まで見とどけて下さい。

ベルフィーとリルビット
さようなら、ベルフィー!!

人は一人だけでは、自分の力だけでは生きてゆけません。自然の恵みを得内親や友人の愛に触れ、そしてたくさんの人たちと助け合ってこそ生きていけるのです。ベルフィーとリルビット、ナポレオンや彼らを囲むファニット族は、それらの一つ一つを教えてくれました。どんな危険にも臆することなく立ち向かい、互いを愛しむ。人が求めてやまぬ、それは理想郷です。

この「ベルフィーとリルビット」は画面では終わってしまいましたが、けれども今度は別の世界で、もしかしたらあなたのすぐ傍でファニット族は生活しているのかもしれません。体はとても小さいけれど、よくよく見なければ気がつかないほどだけれど、一生懸命に生きている彼ら……。自然の中をそっとのぞいてみませんか。やんちゃで可愛いベルフィーが、ちょこんと、あいさつすることでしょう。

半年間の放映を終えてリルビット班は今、一息ついているところ。そこへファニット村から小さなお客様、ベルフィー、リルビット、ナポレオンのおさんかたが来ました。何やら話がはずんでいます。頃は午後３時。ＦＣＮ編集部も事務局のお茶汲みお姉様、Ｙ嬢と共に**林監督**のもとへおしかけました。

林：ベルフィー、リルビット、ナポレオン、長い間いや短いのかな……まあとにかくお疲れさま。

リルビット：監督も御苦労さんでした。

ベルフィー：でも残念だわもう終ってしまうなんて。

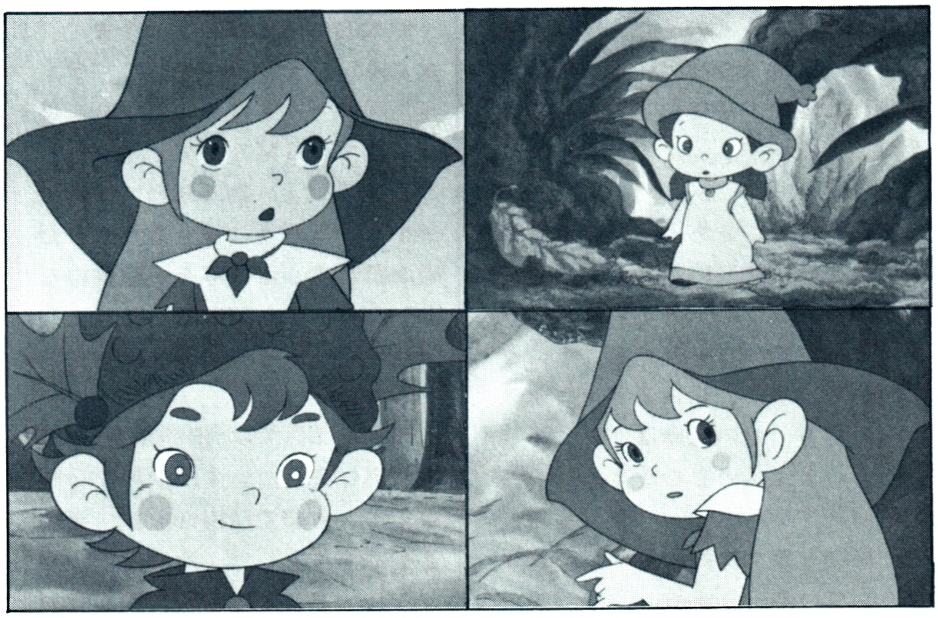
ナポ：きっとつまんないからじゃないの！

林《ギクッ！》

ベルフィー：そんな事言うもんじゃないわ、ナポ！

ナポ：う、うん……

林：《気を取り直して》　まあ僕としても２クール（26本）で終ってしまうのは非常に残念だけれど、スタッフや君達のおかげで楽しくフィルム創りができたの



ファニットは人の心の故郷

■原案　柳川茂

ファニット族の朝は早い……そんな文章で企画書の一行目を書き出した時から、僕と『ベルフィーとリルビット』のつきあいが始まった。

もともとの発想が〝ノーム〟風なもので何かできないかということだったので、どうしても原本にとらわれ、試行錯誤の連続だった。小人を使うということは別に目新しいことではない。かといって新鮮さをどこに求めるか？

結局、だした答えはファニットとは単なる小人というよりも、むしろ人間を小さくした種族と考えた方がいいのでは……と、いうことであった。特別な能力もなく、ただ勤勉さ一つを頼りに大自然の中で生きていくファニットたち。動物との共存、自然との融和、隣人愛……。

そこまで考えが拡がっていった時、いける！　と、確信できた。

ファニットの森はユートピアなのである。人間の心の故郷なのである。だが、ただ甘い世界にはしたくなかった。平和そのもののユートピアにも必ず破局は訪れる。それはファニットの森の大地震となって現われた……。

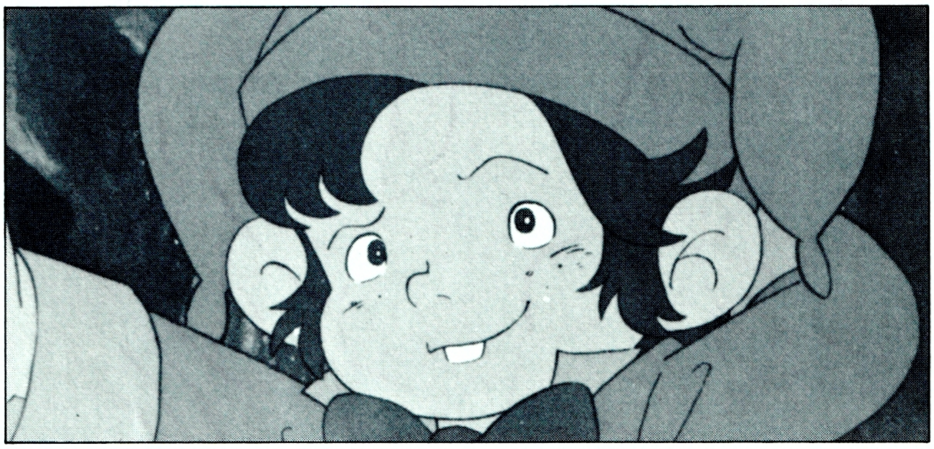
前面にだしはしなかったが、大自然の中はいかに生き物の力が弱いかをメインテーマにしたつもりである。だから、どうなのかを問われれば、僅か26本の話では無理な難題だと答えざるをえない。せめてもう１クール続けたかった……。

ともあれ、ファニットたちの明るい朝はもう近い……と最終回のラストナレーションを書くことで僕と『ベルフィーとリルビット』のつきあいは終わってしまった。けれどもまたどこかであえると祈りつつ、そしてその時にはまたベルフィーの可愛い笑顔が見られるよう、ここに筆を置こう——。

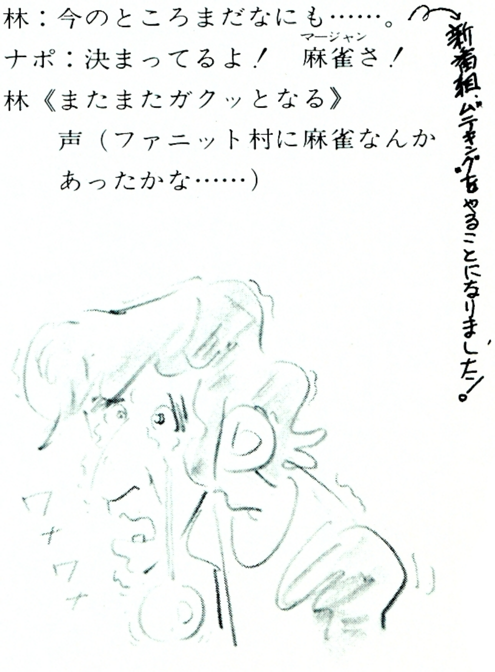
で、感謝していますよ。色々と反省材料もあるけどネ。
ナポ：反省なんかするの！
林《ガクッとなる》

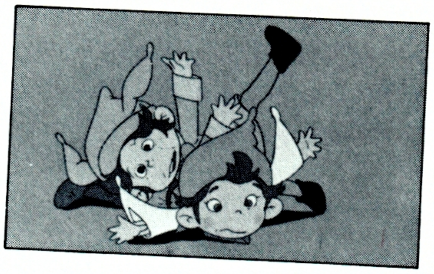
リルビット：僕だっていっぱい反省することがあるよ。ナポだけだよ、いつもいつもベルフィーに注意ばっかりされてさ、少しくらい反省して直したら。
ナポ：なんだと！
リルビット：なんだよ～！
《ニラミ合う二人》
ベルフィー《あきれた表情》
Y嬢：《ジュースを持って入って来る》 まあまあ、おやめなさいな。さあ、ジュースでも飲んで下さい。
林：ジュース!? ビールの方が……
Y嬢《ジロッとニラム》
林：あ、いや、どうも頂きまーす。
《コップの上に乗ってストローで飲む3人》
《ポシャ！ ジュースの中に落ちるナポ》

一同：ハハハ……。ドジだなあ。
林：酒になっちゃうぞ。
《不信そうに見る一同》
林：ナポが落ちたからナポレオン！
《一同シラけた表情》
林：《うつむく》 エーと話はどこまでいったっけ。あ、そうそうナポとリルビットがニラミ合ったんだよな……。どうだ、いっそのこととっくみ合いでもしてみたら。僕が子供の頃はあっちこっちでやってたよ。僕もその一人だったけど、その後はスカッとするぞ！
リル・ナポ：うん…… 《二人、顔見合わせる》
ベルフィー：監督、その体（細い、体重？）じゃいつも負けてばっかりでしょ。
林：う、うん……まあ我々子供の頃は家の中で遊ぶ物がなかったから、学校から帰るなりカバンを投げ捨てて、暗くなるまで外で遊んでいたからケンカがあっても当然なのかも……。それにしても家の中でテレビを見たり、ゲームをしたりじゃなくて、青空の下でもっともっと遊び廻ってほしいネ。といっても学校から帰れば勉強だ、学習塾だ、で時間がないし、それに遊ぶ場所がないもんな。自動車とか公害とか、第一コンクリートばっかしだもんね。ありゃ動物園の檻と同じだよ。
ベルフィー：フ～～ン、なんか可哀相ね……。



林：そうとも。それで土の匂い木の香りがする自然の中で自由に君たちを、いや、テレビを見てる子供たちも一緒に飛び廻らせたい意味もあって、オープニングの歌詩（森へおいでよ）で画面に向かってベルフィーとリルビットに呼びかけてもらったんだよ。
ベルフィー：じゃ、私たちも少しは役にたったのかしら？
林：もちろんだとも！ 他にも親と子の触れ合い、動物とのたずさわり、それに小人の世界……。君たちはたくさんのことを子供たちに教えたんだ。だけどもっともっと、描きたいこともあったなあ……。
Y嬢：ところで林監督はこの後どんな仕事をするんですか？
林：今のところまだなにも……。
ナポ：決まってるよ！ 麻雀（マージャン）さ！
林《またまたガクッとなる》
声（ファニット村に麻雀なんかあったかな……）

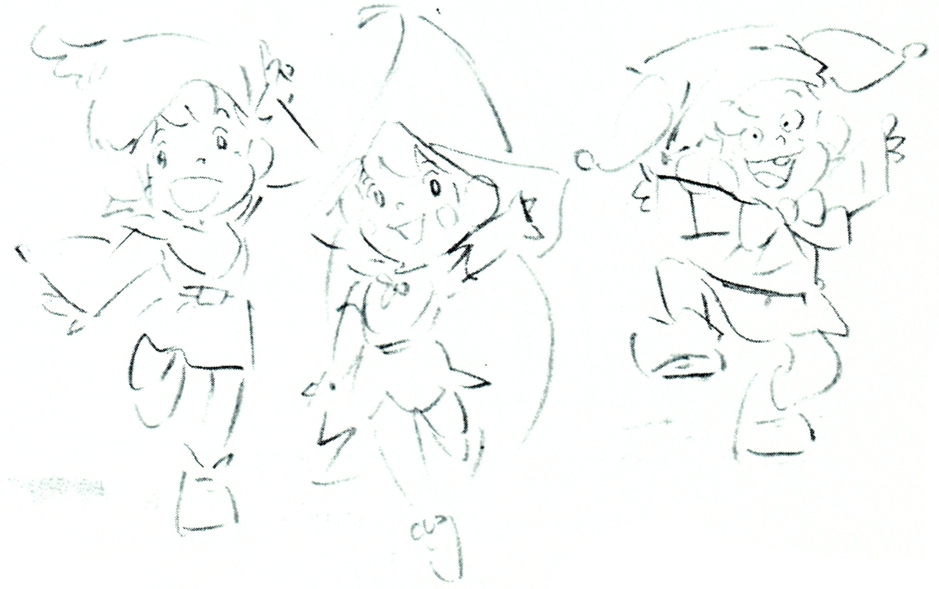




林：まあせいぜい二人共頑張るんだな！
リル・ナポ：うん！
ベルフィー：じゃ私たちこれで…。時間がありましたらスタッフ一同で、森に遊びに来て下さい。
林：うん。《大きくうなずく》
Y嬢：《涙をこらえ、お盆をかみしめながら……》　みんなも時々こちらに遊びに来てね。それからベルフィー、お父さんとお母さんを大切に。これからもうずっと親子で暮せるんですもの、幸せにね。
ベル・リル・ナポ：《元気よく去って行く》　サヨーナラ〜〜！
林：気をつけて帰れよ……　《後は声にならず大粒の涙ポロポロ》

ベルフィー：そろそろ私たち帰らなくちゃ。
林：そうだな……アッそうそう、家に帰ったらドックリン先生に謝っておいてくれ。オヨメさんを世話できなくてわるかったと。
ベルフィー：オヨメさん！　そんな話があったの？
林：うん、文芸の柳川氏とチョッとな……。ベルフィーもいいオムコさんを見つけるんだぞ。
リルビット：僕がいるからまかしといて！
ナポ：ず、ずるいぞ、リルビット！　僕と結婚するんだよね、ベルフィー！
リルビット：な、何言ってるんだ！　僕とだよ！
ナポ：いや僕だ！
リルビット：僕だ！
ナポ：なんだと！
リルビット：なんだよ〜！

そうして、林監督とファニットたちの楽しいおしゃべり、お茶会はお開きになりました。でもまた近いうちに、今度はスタッフ一同と森でお茶会をもよおしたいとのこと。ファニット村の人たちは、どんなふうに歓迎してくれるかな。

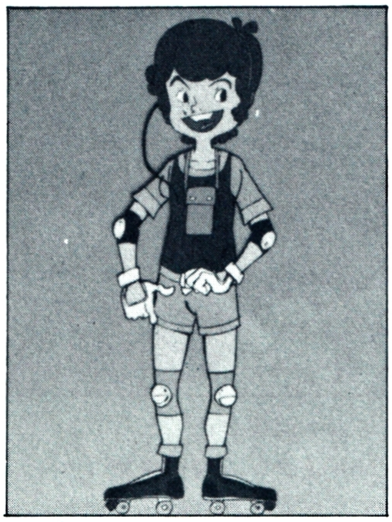


GMのアト番はこれだ!!

とんでも戦士 ムテキング

■昭和55年9月より　CX系
日曜PM6：00〜　放映開始！

▼主人公　遊木リン



▼ムテキング

目標！　30分間、視聴者をテレビ画面にくぎづけすること。

時代は1分1秒を争うかのように進歩しています。そして、あなたこそ超マルチ時代の弾頭です。そんなあなたのフィーリングにピッタシの作品、それが、『とんでも戦士　ムテキング』

時は２０××年、地球は平和を享受するがごとく華やかで楽しい時を迎えていました。だが……！

果てなき宇宙の彼方、タコ星より飛来した悪党タコベーダーであるクロダコブラザーズによって秘かに侵食されつつあったのです……。

「チキュウハ　イマ　タコベーダーニ　セッケン　サレナントス」と、全世界に協力を求めたのは主人公遊木リンの父でタコベーダー研究家の遊木団吉博士であった。

けれど世間の目は冷たく、彼の言葉は誰にも相手にされず、人々の失笑をかっただけでした。しかし、彼の息子たち――主人公、遊木リンとその兄、遊木サニーは、タコベーダー討伐を決意しました。

リンはタコ星からタコベーダーを捕えんと追って来た保安官助手、タコローの超能力によって「ムテキング」に変身し、タコベーダーに向かっていきます。一方サニーは刑事となって、ムテキングとタコベーダーの痴で痴を洗う戦いの中に身を投じていき……。

物語はこの一見、ズッコケきった構図の中で、正統派のスーパーヒーロー、「ムテキング」がサッソウ？と活躍するのです。

また、この作品はホームドラマの要素も含んでいます。ですが、家族が仲よく食卓を囲むといったホームドラマではありません。父は研究に夢中、キャリアウーマンを称する母は仕事仕事で忙しく、兄は派手好きで家出同然……。つまり、全くバラバラな家族がおりなすホームドラマなのです。

アクション物のスピーディさとリズム感、スーパーヒーロー物の良い意味での古さを十二分にいかし、そして更に松竹新喜劇のパロディをミックスすることによって、全く新しいギャグの境地を開いていきます。

この作品は、アニメ版ギャグバラエティショーといえるでしょう。

今、最も新しく、最もトンデル作品、『とんでも戦士　ムテキング』はアニメーションならではのものであり、ギャグアニメの決定版として、皆さんの前に、いよいよ9月から登場いたします。

■納得のいく作品にしたい

企画　九里一平

またまた竜の子プロダクションはやりました。今、最もフレッシュで最もトンデル作品、『とんでも戦士ムテキング』！　なんちゃってまだ放映にもならないのにスタッフ一同かなりの入り込みようでリキまいています。

今回の作品は、全く肩を張らずに見て頂きたいと思います。もしこの作品で肩のこりが出た方にはマッサージ料は僕がお支払い致します。いや、それとも僕がマッサージをして差し上げます。これは冗談ですが、なにしろ絶対の自信作であり、竜の子独自のジャンルですが、試写を見るまでは、やはり心配もあります。

しかし、納得のゆく限りを尽し皆さんの目に触れる頃は、素晴しい作品を完成させることを約束します。

最後に僕の筆から生まれ出た可愛いキャラクター（やつら）にいつの間にか生命観を感じずにはおれない。できることなら、みんなにいつまでも愛され、永遠に息吹いてくれることを願って今一層、僕はファイトに燃えていることを皆さんにお伝えします。

▲人間に化けたクロダコブラザース

MEMORANDUM

〈海底大戦争のキャストが決定しました！〉

日本ＴＶスペシャル『海底大戦争愛の 20000 マイル』のキャストが決定いたしました。多彩な声優諸氏をむかえ、作品にますます幅が出てくることと思います。

作品は現在完成にむけて着々と制作中！　放映日は未定ですが、決定しだい何らかのかたちで、皆さんにお知らせいたします。

井上純一氏が歌うメインテーマ、〝アトランティス〟のレコードは、コロムビアより発売中です！

■キャスト

リッキー：井上純一
ソフィア：北村優子
ベン：伊武雅之
ネモ：黒沢　良
スミス：宮内幸平
ジム：西尾　徳
ジョンソン：西川幾雄
ダリウス：加藤精三

〈世界へワンステップ — MIP映画祭〉

過日４月中旬から下旬にかけての一週間、カンヌ映画祭のＴＶ版ともいえる『MIP　映画祭』が、フランス・カンヌにて催されました。

この映画祭はほぼ世界中からＴＶ作品制作者が参加し、アニメーション、実写番組とも何千本も持ち寄られ、紹介されます。

今、世界のＴＶ作品にはどういうものがあるのだろう。何か新しいものはないだろうか。各制作者の作品創りに対する姿勢は……？『MIP映画祭』は単に作品のセールスだけではなく、制作者同士のディスカッションの場、交流の場として設けられています。

今年も竜の子は、ベルフィー、テッカマン、カバトットをはじめ、多数の作品を出品しました。竜の子ではエースからガッチャマンにいたるまで、そのほとんどを海外に輸出していますが、この『MIP　映画祭』を足がかりとしてセールスされたものも少くありません。

日本のアニメ、アメリカのアニメ、ヨーロッパのアニメ、言葉や慣習が違いこそすれ、描かれるテーマ——人を愛する心や未知な物への好奇心、憧れは皆同じです。アニメーションには国境などありません。皆さんがディズニーアニメで育ったように、今世界各地の子供たちが、ハッチやガッチャマンを見ています。そこから何かを感じ、ひととき夢を与えることができたなら……そう願っています。

竜の子キャラクターは海を越えて活躍し、竜の子ファンもアメリカだけではなく拡まっています。海外のファンはどんなふうにハッチや健が好きなのか——興味あるところです。

海外版キャラクター商品に見入るスタッフ

〈竜の子商品取扱店〉

竜の子作品のセル画、シナリオ、資料集等の商品は、下記のアニメーションショップにて取り扱っております。お時間がありましたら、ぜひ最寄りの取り扱い店におたずね下さい。

- **ラポート**（アニメック）
  160　新宿区新宿２－１－１
  03(354)3951
- **マスコット**
  177　練馬区上石神井438
  03(928)0173
- **東映動画**
  177　練馬区東大泉町1002
  03(923)4591
- **東急レクリエーション**
  150　渋谷区桜丘２－９
  03(463)5891
- **ふれなばおれん社**
  167　杉並区西荻北５－12－13
  03(390)8461
- **シネ・プラザ**
  150　渋谷区恵比寿西1－8－7
  03(496)0468

〈通販用スタンダードセル画、一段と増えました〉

TATSUNOKO SHOP（竜の子ファンクラブアニメショップ）の通信販売では、以下の通りスタンダードセル画を取り扱っております。次回はオタスケマンを予定しておりますので、お楽しみに――！

背景付き３枚セット　〒共1,800円
背景なし３枚セット　〒共1,000円

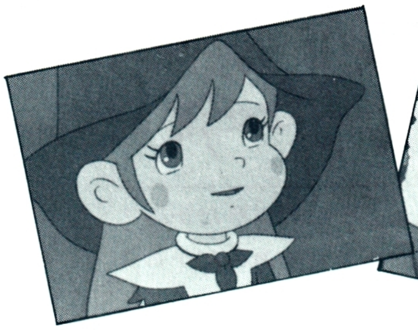
メインキャラクターのみ指定可能ですので、第３希望までお知らせ下さい。絵柄についてはおまかせ下さい。またメインキャラクターでも在庫が少いもの、《　》内のものについては２セット以上お求めでないと指定が可能になりませんが、この旨どうぞ御了承下さい。

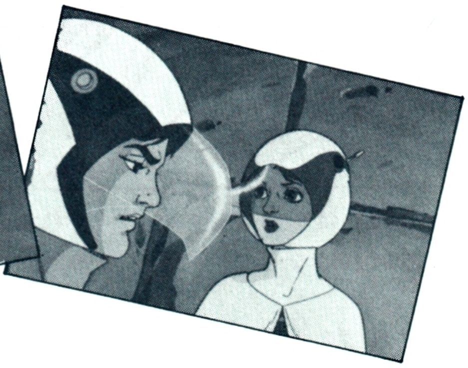
①ガッチャマンＦ　《ジュン》
②ゼンダマン
③ゴーディアン　《さおり》
④ベルフィーとリルビット　《チュチュナ》

■お申し込み方法

通販御希望の方は、品名，背景つき、背景なし、キャラクター名を明記し、郵便振込にてお申し込み下さい。

口座　東京8－157908
加入者名　（株）竜の子プロ





〈これからの再放送予定〉

もう幾つ寝れば（違ったかな？）楽しい夏休み！　スケジュールなんかもバッチリ立てて、あとはひたすら待つばかりかな？

一ヶ月ものお休みとなれば、お楽しみはこれもなのだ!!　アニメ番組の再放送は各局目白押し。竜の子アニメも負けじと各局で再放送が予定されています。これを見逃す手はありません。あなたのスケジュール表にぜひ仲間入りさせて……！

- **マッハGO GO GO**
  静岡第一放送　北海道文化
- **紅三四郎**
  テレビ宮崎　テレビ静岡
  北海道文化

- **ハクション大魔王**
  福井テレビ　東日本放送
  テレビ宮崎　テレビ静岡
  福岡放送　西日本放送
  秋田テレビ　岩手放送
  読売テレビ　広島テレビ
- **カバトット**
  北海道文化　静岡県民放送
- **樫の木モック**
  仙台放送　広島ホーム
- **けろっこデメタン**
  東日本放送　北海道文化
- **新造人間キャシャーン**
  西日本放送　静岡第一放送
  テレビ宮崎　北海道文化
  東日本放送
- **破裏拳ポリマー**
  テレビ宮崎
- **宇宙の騎士テッカマン**
  福岡放送　テレビ宮崎
  西日本放送

（６月調べ。多少変更となることもありますが、御了承下さい。）

この夏休み、ＴＶの前に釘づけになっちゃうかな。だけど勉強も忘れないでね！

FAN FAN

GM特集

何故傷つかなければならないのか　それがあなたの青春だから？
何故苦しまなければならないのか　それがあなたの運命だから？

何故戦わなければならないのか　それがあなたの人生だから？
何故悲しまなければならないのか　それがあなたの総てだから？

戦うために　生まれてきて
戦いのために　傷ついて
いつか　戦いの中で死んでゆく

科学忍者隊のリーダー　ガッチャマン
平和の戦士
その輝かしい肩表きの裏に
かくされているもの　それは
悩みと苦しみと悲しみと
そして——

何のために戦うのか　何を求めて戦うのか
そんなにも激しく　そんなにも哀しく
そんなにも　あざやかに……
その手で人を殺(あや)め　その手を血で汚し
青春を戦いにかえ　戦いの中に生き

ああ
あなたの翼は　それでも白い
あなたの瞳は　それでも蒼い
なぜ——？

それは　あなたのそばには
いつも　仲間が　いるから
あなたのそばには
いつも　あたたかい心があるから

手をさしのべればいつでもうけとめてくれる
かぎりなく　深い友情が
あなたの　すぐ　そばにあるから……

▲ポエム　ベルク・カッツェの娘
▲イラスト　くらさ

山猫よ
巳が身を呪い　憎しみを育て
悪であることを悔やまなかった
山猫よ

おまえの見果てぬ夢は
星雲のかなたに飛び去った
高い叫びを残して溶岩に消えた
山猫よ
安らかに眠れとは祈るまい
ただ運命のまま永遠に
さすらえ　と

投げた視線の先に
かっておまえの姿があった

——いてくれるだけで
よかったのに——
今　口にしても　虚しいわがまま
紫煙のむこうにはおまえの姿はない

▶ポエム　鷹羽朱美
▶イラスト　山本正子

■GMは暴力的だとよく言われる。事実、新聞によれば、米版では暴力的ということで少なからずカットされたとか(?)　アクションに関していうなら、私はGMを少しも暴力的だと思わない。アニメならではの映像美にあふれていて、そこらのロボット・プロレス物とは次元が違う。私でなくても、竜の子アクションの——その最高峰Gアクションの素晴しさを否定する者はいないだろう。(ポリマーもすごい!)あの動きの流麗さには誰もが本当に酔いしれてしまう。

だが、美しさに惑わされてはならない。行為そのものに目を向けた時、彼らの残酷さはどうだ。いとも平然と、時には喜々として、大量殺人をやっているではないか。ギャラクター隊員だとて傷つけば赤い血の流れる同じ人間だ。パパの帰りを心待ちにしている息子さえいるかもしれないのだ。——彼らは、こんなことは考えない。(少なくとも戦闘中はね。戦闘時にそんな余裕はないのかもしれない)極論にすれば、ギャラクター隊員を主体的な存在、人間だと思っていない。彼らは、個々の事実とではなく、ギャラクター＝敵＝絶対悪の概念と戦っているのである。だからこそ、愛と正義(この「正義」ってのがまたくわせ者なんだが)の人々、忍者隊が、何の痛痒(つうよう)もなく大量殺戮をやってのけられるのだ。

日本人なら決して忘れることのできない8月6日と9日。瞬時にして肉体を失い、石段に焼きつけられた影、影。だが、原爆を落した米兵達は、その瞬間、歓喜の声をあげたという。キノコ雲の美しさに見とれさえしたかもしれない。彼らは、何十万という市民を「敵」という概念に抽象化しているのだ。市民の、犠牲者の個々を思いやれば、あんなことはできまい。思うまい。原爆——じかに殺人の手応えを知ることのできないこの科学的な手段が、米兵の神経をさらにマヒさせている。

動物なら持っている攻撃への抑制が彼らにはない。人間——特に近代における人間にはない、と言い換えるべきなのかもしれない。人間のみが持つ抽象と文明の科学的な発達が人間に残酷さを感じさせず、人間に残酷な行為を可能にするのだから。

健たちは、そしてギャラクターは、だから、極めて人間的なのかもしれない。人殺しでしかない戦いを、その華麗なアクションゆえにカッコイイと思う私もまた……。

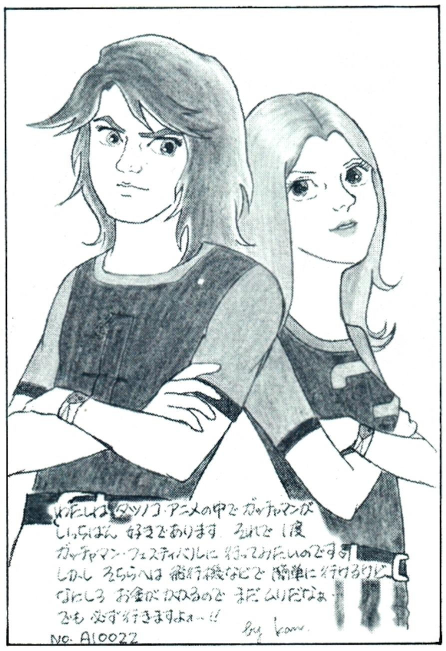
——悪魔的な、破壊を好む心は、私たちの、あなたたちの心の片隅にも眠っているのではないでしょうか。(“地球消滅0002”より)

by　西宮市　広内靖世

▲札幌市　蒲原真寿美

■私が初めてジョーを見たのは、小学校6年生の時。最初私はジョーがきらいだった。やたら気取ってると思っていた。でも回を重ねるごとにいつかしらジョーにひかれている自分に気がついた。今にして思えば初恋だった。いつかジョーの苦しみを自分のものとし、彼を愛していた私。人にいえば笑われるかもしれないけれどあの時、私にとってジョーは愛する人だった。ませていたのかもしれない。ジョーに近づく女性に対して嫉妬し、彼を苦しめるギャラクターを殺してやりたいと思った。

“地球消滅0002”にいたるまでの

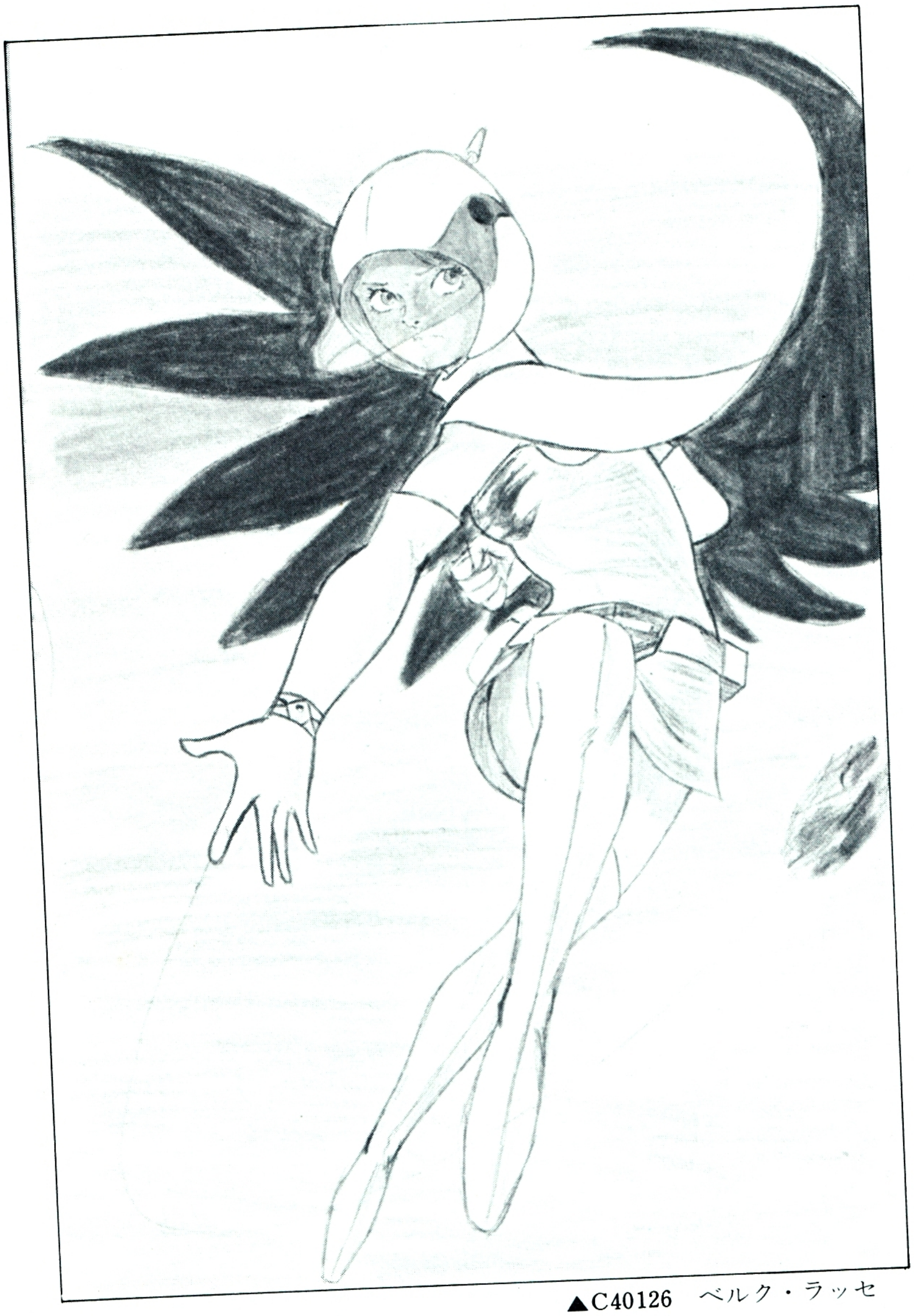


▲F50161　聖人

ジョーの苦悩する姿を見て、胸がはりさけそうだった。私は一晩中泣いた。そしてジョーをおいていった健に対して憎しみさえ感じていた。でもあとから考えてみればあの時一番苦しんだのは、健かもしれない。リーダーであるがゆえに、仲間であり、親友でもあるジョーをおいていかなければならなかった。おそらくジョーをおいていく時点で、健は死を決意していたに違いない。

結局、私はいくらジョーを追いかけても彼には近づけない。いつの時でも私は外野でしかない。でも私はジョーを愛した。今でも愛している。それは愚かなことかもしれない。けれど私は忘れられない。ジョーの生き様を……。今、GMIIとファイター、ジョーはサイボーグとして蘇えり活躍しているけれども、私には前ほど魅力が感じられない。あのまま、旧GMが終った時点で永遠に終って欲しかった。あのまま、静かにしておいて欲しかった。そう思うのは、私のエゴイズムなのだろうか?

by　黒木アリサ



▲C40126　ベルク・ラッセ

■「尊敬する人物は？」と問われたら私はまちがいなく「吉田竜夫とスカーレット＝オハラと白鳥のジュンと佐々木功」と答えるだろう。とくに女性として尊敬しているのがＧ３号、白鳥のジュン。最近のアニメファンはあきめくらだ！　ジュンの素晴しさに気づかないなんて！　オロカモノメ！　オロカナアホウドリ！

科学忍者隊の中で常に自分のなすべきことを知り、今は誰に自分の愛を与えてやるべきかを知り、他の４人の誰にも平等にいつくしみを与え、そしておまけにならず、自分だけの位置を確立し、隊の中で１番大人である……（ホメすぎかな？）ジュンって本当に素晴しい女性だと思うのだ。

よくただ愛されることだけを待っているヒロインがいる。愛されることが愛の成就だと思っているヒロインがいる。けれどジュンの愛は、愛されることではなく愛することが、愛をわけ与えることがその成就のようだ。

ジュンのように自分の持った愛を至上の愛にまで高めることができたら本当に素晴しいと思う。

私もジュンのようになりたいけど、かなりムリみたいなんだワァ。

by　D40018　増田浩美

■私は火の鳥が好きである。５人が揃って苦痛に耐え、そして始めて生み出されるのが火の鳥である。火の鳥こそガッチャマンの姿だと思う。

健は言葉を飾らない。行動で自分の辛さ、悲しみを押しかくし、それを表面に表わさない。一方では冷静なキャプテン、一方では怒りにふるえる男、そんな健のひたむきさが好きだ。ジョーは暗い影を持っているが、昔のようにそれにこだわらなくなった今、よく彼を考えてみると、５人の中で一番強い愛情表現をする男だと思う。何気なく、そっと隣りにいて、いつでも見守ってくれる。そんな優しい男なのだ。私は彼が一番好きだ。というのも最初のシリーズの時、一番強いショックと悲しみを持ってしまったからかもしれない。私はＧＭⅡの放映まで、ジョーは死んでいないと言いはっていた１人でもある。ジュン、彼女についてはシリーズの中ではあまりとりたてて扱っていない。しかし、彼女は私の目には恋する女であり、息子を育てていく母の強さと優しさを持つ女というふうに映っている。甚平、おませなくせになかなか大人になりきれない。逆に言うと、子供の純粋さと、大人の悲しさの間を行ったり来たりしている。竜、文字通りの海の男。広い広い男であるが、自己をうまく表現できないもどかしさを感じるような時もある。

こんな５人の生き様が、戦いの姿が、あの火の鳥になって表われてくるのだ。炎と圧力にあえぎながら、５人は耐える。それは何のためか？世界の平和のためだけではない。彼らは生きていく確かな手応えを求めて悩みながら生き続けているのだ。

平和を手にするまで、彼らはそうして生きていくだろう。今の私には、もうこの戦いが終ってほしいと思う気持ちと、彼らをいつまでも見ていきたい、という気持ちが半々である。ただ、シリーズが終了しても、私は5人を愛し続けていくだろう。

by G 2号しらさぎのベス

■守ろうとしたのはただ一つの地球。
青い海、緑の大地。
守ろうとしたのはただ一つの愛すべき地球。

彼らは地球のために、あんな生き方をせねばならなかったのだろうか。地球のために、ああも自分自身をすり減らさねばならなかったのだろうか。引力に縛られ、大地を這いずり、彼らは誰より人間臭かった。

戦いの中、なおも人間であろう、自分であろうとした健。そしてそれが、リーダーとしての健と、彼自身の中で戦い、結局健はリーダーとして生きた。その生き方が、正しかったかどうかは別として、ジュンに、「ここでみんなと一緒に死にましょう」とすがられた時、健の胸に去来したものは、自分の人生に対する「なぜ」ではなかっただろうか。

そして修羅の妄執ともいうべきジョー。彼らの戦い自体がそうだったように、ジョーの中でも戦いが憎しみを生み、憎しみが戦いを生んでいった。けれどジョーが持っていたものが憎しみ、復讐心だけだったとしたら、彼の姿はあれほど悲惨ではなかっただろう。彼が修羅場の中で知った愛や優しさが、ジョーをジョー自身消滅という形にまで追いこんでしまったような気がする。

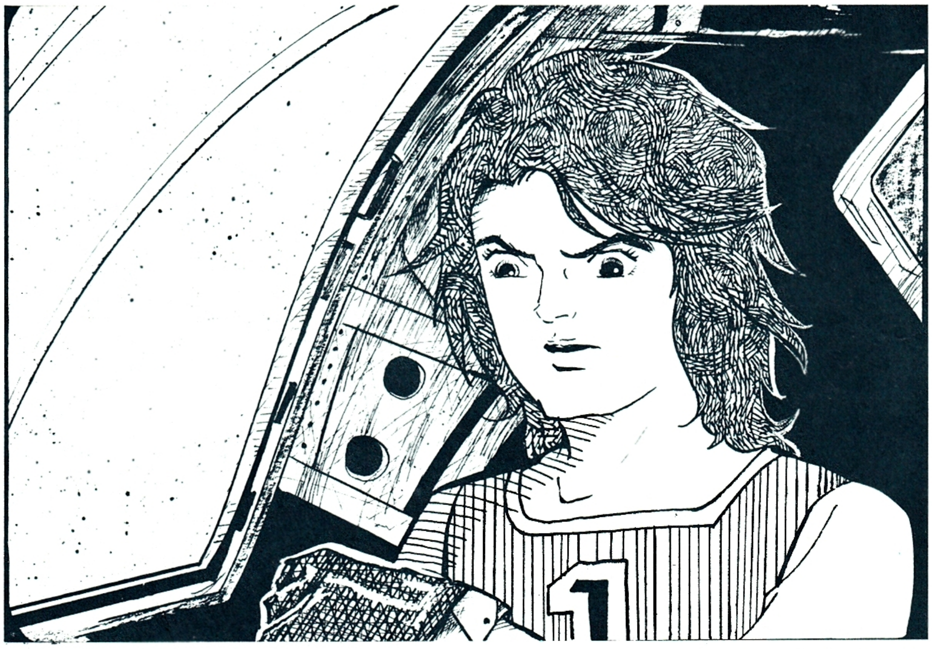
健とジョー……よく成長と言われるけれど、私には決してそうは思えない、どうしようもない世界がそこにあった。そんなどうしようもない世界の中で、彼らが何かのために戦ったのだとしたら、それは握りあった仲間たちの熱い手のため、ではないだろうか。

守ろうとしたのはただ一つの地球。
青い海、緑の大地。
守ろうとしたのはただ一つの愛すべき地球。生みだしたものは悲劇だけだったろうか。

by 江別市 前川直子

■遠くをみつめる瞳に水平線が映る
風になびく髪が ほほをなでる
口元には微かな微笑(ほほえみ)がうかぶ
今 やすらぎが彼をつつんで行く
すべてが終った。
あのいまわしい戦いも きのうに
そしてあの女性(ひと)とのことも……
なにもかも すべてが
跡に残ったものは ただ一つ
健(やつ)との友情 それだけ
でも これだけでいい
孤独(ひとり)ではない 孤独では
健がいる 健との友情がある
共に生きよう
生命あるかぎり 精一杯……

by 木更津市 浅倉啓子



▲岡山県 相崎ゆかり

GM特集に多数の寄稿ありがとうございました。またもやボツになったというあなた！ メゲないで。まだまだ次の機会があります。次号はリルビット特集を予定しています。ファニット族に感じたこと、何でもいいんです。イラスト、キャラクター論、お待ちしております。原稿〆切りは8/10、消印有効です。

原稿はなるべく原稿用紙で——、16字×30行～50行程度でお送り下さい。イラストはスクリントーン、ウスズミ、色鉛筆、ほか可です。

また、FCN別冊、FAN FAN 特集号『フリーフライト』も着々と準備を進めておりますので、どうぞお楽しみに——。

©1980 TATSUNOKO

事務局だより

GMフェスティバルNo.2

日時：昭和55年8月2日(土)
　AM9：30～PM8：00
会場：千代田区公会堂(九段下(くだんした)下車)
上映作品：旧作ガッチャマン13本～15本上映。他、アトラクションも予定してます。
チケット：当日券　1,200円

ガッチャマン系新セル、ポスター、シナリオ、ファンシー商品の販売、また、当日来場の方にはお楽しみ袋をプレゼントいたします。

あの、カリフォルニアブルーの空の下、君は、若者たちの青春を観る。
——今、熱いコールが聞こえる！

GMフェスティバル　No.3

ガッチャマンがついに終ってしまう。もう、彼らのあの姿を見ることはできないのだろうか？　否、たとえTV画面から彼らの存在が消えたとしても、健やジョーは、あなたの心に、私の心に息づいている!!

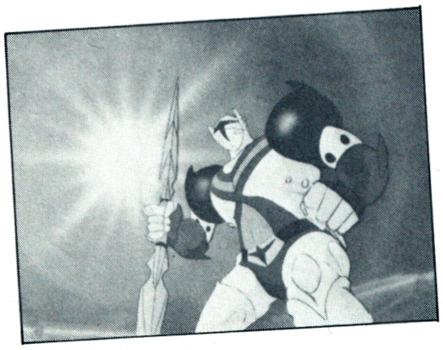
旧作からファイターまでの彼らの生き様、あなたは一つ一つ覚えているだろうか。どんな小さなことでもいい。ガッチャマンファンと共に語っていこう。南部を語り健を語り、ジョーを語る——。そこにまた自分では感じ得なかった新しい彼らを発見できるかもしれない。

次に催される『ガッチャマンフェスティバルNo.3』　フェス企画部は単なるガッチャマン上映会ではなく、『ガッチャマン終了記念式』『南部長官告別式』の意を含め、今までにないイベントにしようと現在懸命にその企画を進めている。

日時：昭和55年10月10日(体育の日)
　AM11：00～PM4：00(未定)
会場：千代田区公会堂
内容：旧作ガッチャマンからファイターまでを集大成。
　南部長官の冥福を祈る。
参加申込：参加御希望の方は返信用切手を同封の上、何名参加かを明記し、事務局へ御連絡下さい。おって9月末日までに指定席券を発送いたします。
　参加料は無料、カンパ制となります。

一人でも多くの方の参加を、お待ちしております。

支部局情報



皆さんにはすでにおなじみになりました、全国8地区の地方支部局。各支部局は数ヶ月に一度、ミニ上映会やファンの集いを独自の企画で催し、会員同士の交流を深めています。

このたび北海道と愛知支部局にて局長の変更がありましたのでお知らせします。以下は各支部局の連絡先です。お問い合せは必ず50円切手を同封の上お願いいたします。

地方支部局をもりたてていくのは会員の皆さん自身です。叱咤激励、支部局活動に対する御意見、御感想がありましたら、ぜひお便り下さい。お待ちしております。

▶北海道：069－01　江別市文京台39－20　第1学友荘5号室　前川直子
▶宮城：980　仙台市川内三十人町49－50　佐々木紹子
▶新潟：951　新潟市四ッ屋町3－5132　山木洋子
▶神奈川：238　横須賀市佐野町1－18　高波美好
▶愛知：493　葉栗郡木曽川町玉ノ井砂割－1切115　大橋晃三
▶大阪：573　枚方市牧野北町6－3－307　中林千景
▶広島：733　広島市社波栄町3－8　団郁子
▶福岡：810　福岡市中央区警固2－6－9　今村みどり

〈これからの活動予定〉

● 8/17(日)　大阪支部上映会
　上映作品：マッハGO　決断　テッカマン
　会場：豊中市民会館
　会費：会員　250円
　　一般　350円
● 11/16(日)　宮城支部上映会
　上映作品・会場：未定
※詳細は各支部にお問い合せ下さい。